

岐阜大 第一内科では以前から肝疾患における、血漿アミノ酸の分析を行ない分岐鎖アミノ酸 (BCAA) の栄養アセスメントの面での重要性について論じ、これらBCAAの補充効果について論じられている。(Biomedica Vol5 No1 p49 Jan. 1990)

我々も、肝硬変を中心にPro代謝の動きについて論じ、Glyなどの排出増加と Pro Imino peptidaseの変動について報告した。(7th International Congress on Clinical Enzymology Abstracts p47 No104 11th Sept. 1988 Osaka)

さらに、糖尿病 (DM) やパーキンソン病 (PD) 患者についても検討を行ない、その一部を報告してきた。(Alzheimer's and Parkinson's Diseases, Basic and Therapeutic Strategies, 2nd International Conference, Abstracts p144 4th Session Day No225 10th Nov. 1988 Kyoto)

今回さらにその問題について検討し、次のような結果を得たのでここで報告する。

[実験方法及び結果]

① PD患者の血漿アミノ酸の分析では、特にTau, Met, Tyr, Trp量の減少が見られる。

② DM患者においても、よく似たパターンが得られる。

これらの問題について、同時にV.B.欠乏症の実験を行なった結果、ことにV.B.欠乏における血中Zn量と、PDにおけるZn量はともに増加している。他方V.B.値について検討を加えると、PDではその絶対量においてむしろ増加の見られる症例があり、DMにおけるV.B.の問題とPD患者におけるDOPA療法でのV.B.負荷の問題点をこの結果から説明できると思える。